

令和7年度第1回さいたま市市民活動サポートセンター運営協議会・会議録

《開催概要》

■開催日時

令和7年7月30日（水） 午後5時から午後7時まで

■開催場所

さいたま市市民活動サポートセンター 北ラウンジ

■出席者名

□委員

高橋浩、春華未来、金福漢、武原忠志、大地恒一郎、高橋司、日榮貴子、花島敏夫、堀江光夫、
奥山吉寛、島田正次、福島康仁、大橋太郎、渋谷浩司、林勇

□事務局

橘一郎、石井崇、小松崎涼介

■欠席者名

□委員

長島謙、金尾美知子、武井佳美

■議題及び公開又は非公開の別

□議題

令和7年度事業計画について

□公開又は非公開の別

公開

■傍聴者の数

0名

■審議した内容

令和7年度事業計画について

■問合せ先

さいたま市市民局市民生活部市民協働推進課 電話番号：813-6403

■次第

1 開会

2 報告

(1) 実施事業について

3 議事

(1) 令和7年度事業計画について

4 閉会

《会議録本文》

1 開会

座長： それでは定刻となりましたので、令和7年度第1回さいたま市市民活動サポートセンター運営協議会を開会したいと思います。まず初めに、事務局よりご報告をお願いします。

事務局： まず、新たな委員について報告させていただきます。「さいたま市市民活動サポートセンター運営協議会 委員名簿」を御覧ください。山本委員の退任に伴いまして、今回の会議より、大地委員に参加していただくこととなりましたので、ご報告させていただきます。

それでは大地委員より、自己紹介をお願いいたします。

大地： 本日から参加させていただきます、さいたま浦和地区保護司会中央支部の大地と申します。よろしくお願いいたします。山本から引き継ぎまして今回参加するのですが、こちらのサポートセンターを利用するのは本日が2回目です。保護司会として利用させていただく機会はあまりないのですが、今年5月に中央区のコミュニティ協議会に参加している与野浦高会が大型プリンターを使用する際に印刷作業室を利用させていただきました。本日で2回目ということで、勝手に分からない部分がございますが、いろいろお話をさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

座長： 今回から大地委員が参加されるということですので、また新たな視点からご意見等をいただければと思います。よろしくお願いいたします。それでは事務局より、本日の出欠状況と傍聴希望者の報告をお願いいたします。

事務局： 本日の出欠状況ですが、長島委員、金尾委員、武井委員より、欠席の連絡を受けております。現在、傍聴希望者はお見えになっておりません。本日の会議では、不開示情報にあたる個人情報等の取扱い等もありませんので、公開とするということによろしいでしょうか。

座長： 皆さん、よろしいですか。会議途中の傍聴につきましても、会議運営上問題がないかぎり、随時許可したいと思います。続いて、事務局より会議資料の確認をお願いいたします。

事務局： それでは、本日の会議資料の確認をさせていただきます。資料は事前に郵送させていただいておりますが、お持ちいただいておりますでしょうか。では、確認させていただきます。

まず、「次第」。続きまして、「さいたま市市民活動サポートセンター運営協議会 委員名簿」、資料1-1「実施事業報告一覧」、資料1-2「実施事業報告」、資料2「令和7年度事業計画について」、資料3「さいたま市市民活動サポートセンター利用状況」となっております。

本日の資料は以上となります。過不足等がございましたら、手を挙げていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

2 報告

(1) 実施事業について

座長： それでは早速次第に沿って進めていきたいと思いますが、まず、次第の「2(1)実施事業について」、事務局より報告をお願いいたします。

事務局： それでは、サポセンで実施したセミナー及び交流イベントについて、事業報告させていただきます。なお、今回は先に報告を行い、後に議事について説明させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

資料1-1の実施事業報告一覧をご覧ください。こちらに、今回報告させていただきます実

施事業を一覧にまとめております。それでは資料1-2の1ページをご覧ください。「NPO 法人会計講座～基礎&応用～」について説明します。この事業は、日々の会計処理や年間を通して必要となる会計事務、決算書の作成などを学び、実践に役立てることで持続可能で安定した団体運営を図ることを目的として企画されたものです。内容としましては、基礎編と応用編で2日に分けまして、基礎編では会計基準や財務諸表の分野を、応用編ではキャッシュフロー計算書の作成等を取り扱い、入門者から実際に会計業務に携わっている実務者まで幅広く学習できるようにいたしました。また、講義だけでなく収益事業の判断基準や車両を取得した時の減価償却といった質問に応じる時間も十分に設けたことにより、講座終了後のアンケートにおいても、高い満足度を獲得することができました。

次に、3ページを御覧ください。「フードドライブ・マッチング」について説明します。この事業は、高鼻コミュニティセンターで開催された東大宮グループフェスタに関わる市民に対して、フードドライブ事業を集中的に受付し、市民活動で取り上げられる食品ロス削減や寄付を通して、市民と交流しながら、市民活動へのきっかけづくりや理解を促すことを目的として企画されたものです。内容としましては、東大宮グループフェスタに参加し、近隣住民やグループフェスタの来場者にフードドライブの周知を行いました。また、家庭で余っている食品等をお預かりし、NPO 法人フードバンク埼玉を通して福祉施設等に寄付いたしました。今後も様々な場所で事業の啓発を図っていきたくと考えております。

次に、4ページを御覧ください。「コミセンまつりマッチング」について説明します。この事業は、市民活動団体に普段の活動地域外での発表の場を提供することで、より多くの市民に存在や活動を周知する効果とともに、分野・地域を越えた団体間の交流や親睦を図ることを目的として企画されたものです。内容としましては、こちらも「フードドライブ・マッチング」と同様に東大宮グループフェスタにおいて、他のまつり参加者とともに市民活動団体もブースを作り、日ごろの活動紹介、パネル展示や団体PRなどを行いました。東大宮グループフェスタ展示の部において、サポセンからは3団体が参加し、東大宮グループからは12団体、総勢15団体が参加しました。サポセンから参加した3団体においては、展示のほかワークショップも行い、多くの方々が体験をされており、他地域における団体のPRにつながりました。また、東大宮グループから参加された団体とも展示を通じて懇談的に対話ができ、活動分野を超えた交流が図ることができたと感じております。

次に、5ページを御覧ください。「こどもの育ちと学び交流カフェ」について説明します。この事業は、地域の子どもたちが自由に遊び、学べる環境を作るために市民活動団体に所属する方、市民活動に関心のある方、教育関係者など様々な立場の方々から意見を出し合う交流の機会をつくり、参加する方々がつながる場を提供することを目的として企画されたものです。内容としましては、第1部と第2部に分け、第1部では全国でも先進的な取り組みを行う茨城県の現状を、不登校・多様な学びネットワーク茨城の講演を通じて学ぶ形式とさせていただきました。講師の方には、数団体から始めたネットワーク作りが現在は139団体まで拡大し、行政への働き掛けもできるようになった経緯をわかりやすく紹介していただきました。第2部では埼玉県内で不登校の課題やフリースクールなどの運営に関わっている団体どうしが意見交換を行いました。茨城県と埼玉県の公的支援の状況は異なりますが、「人とのつながり」が重要なキーワードであることを学びました。講座終了後のアンケートにおいても、講義内容について大変良かったとの声を多くいただきました。

次に、7ページを御覧ください。「小学生オリジナル万華鏡づくり講座」について説明します。この事業は、大学生のインターンシップ生が企画した講座を通して、市民活動団体やボランティア、NPOに興味・関心を持ってもらうことを目的として企画されたものです。内容としましては、市民活動団体が講師となり、小学生向けに講座を開催しました。講師から3R（Reduce、Reuse、Recycle）の説明があり、使用済みの牛乳パックを使うことで環境問題を身近に感じてもらうことができました。講師の団体は普段の活動で小学生と接しているため、大変分かりやすく講座を進めることができ、参加者全員が時間内に万華鏡を完成させることができました。参加者同士が完成品を見せ合う光景も見られ、講座を通して市民活動に興味を持っていただけたと感じております。

次に、9ページを御覧ください。「小中学生アートフラッグ展示」について説明します。この事業は、地域連絡協議会協力校の小中学生に対して、サポセンフェスで展示するアートフラッグの制作に関わる機会を提供し、市民活動に結びつく活動を実践してもらい、市民活動に対する意識の高揚を目的として企画されたものです。内容としましては、小中学生が色付けしたアートフラッグをガーランドにして、サポセン内と浦和コミュニティセンター内に展示をいたしました。アートフラッグのデザインは浦和麗明高校の美術部に制作を依頼いたしました。小中学校の学生にアートフラッグへの色付けを行っていただくことで、市民活動に対する興味関心のきっかけ作りができました。また、展示したアートフラッグを見に来た際、市民活動団体のブース展示やステージ発表を鑑賞することで、市民活動に対する理解を深めることができました。今後もサポセンへの来場の機会と、市民活動に興味関心を持ってもらえるよう、地域連絡協議会協力校と連携を図っていきたいと思います。

次に、10ページを御覧ください。「サポセンフェス」について説明します。この事業は、主にさいたま市内で活動する市民活動団体のPRを行うとともに、市民活動団体相互の交流や親睦の輪を広げ、さらに新たな市民の参加を促進することを目的として企画されたものです。浦和コミセンまつり、手づくり製品見本、さいたま市民活動マルシェも同時開催とすることで、賑わいの創出を図っております。前回の運営協議会でもお話させていただきましたが、今回は非常に多くの方にご来場いただきまして、1日目は3,845人、2日目は3,157人、2日間で合計7,002人の方にご来場いただき、来場者数の目標値としておりました6,600人を達成することができました。来場者、参加団体のアンケートにおいても、「他団体と交流の機会を持つことができて楽しかった」といった意見や、「回数を重ねるごとに良くなっている」といった意見を多くいただきました。一方で、「展示ブースの設置場所によって、集客に偏りが発生している」といった意見もありましたので、次回の検討事項とさせていただきます。なお、次回のサポセンフェスは令和8年3月7日（土）、3月8日（日）に決定いたしました。委員の皆様も、ぜひご参加いただければと思います。

次に、14ページを御覧ください。「市民活動シンポジウム」について説明します。この事業は、市民活動を行っている団体に向けて、「デジタル技術を活用した市民活動と協働」の実例を紹介し、課題に取り組む協働の理解を深めることで、地域社会における課題解決を目的として企画されたものです。内容としましては、第1部から第3部に分け、第1部の基調講演では、会社経営やNPO運営・支援を数多く実施されている公益財団法人いきいき埼玉代表理事の永沢氏から市民活動を取り巻く近況についてお話いただきました。「ひと」と「資金」の2つの問題がさらに深刻化していること、多様化・複雑化する地域課題について市民活動の役割は高まっ

ている等の説明がありました。第2部ではパネリストの紹介を行いました。今回はパネリストとして、高橋司委員及び林委員にご参加いただきました。第3部のパネルディスカッションでは3つの質問に対して、3人のパネリストがそれぞれの立場から議論を行いました。市民活動の基本となる対面での活動は残しつつ、状況に合わせたデジタルツールを駆使した活動が求められるといった意見をいただきました。参加者アンケートにおいても、講座内容について好評をいただきました。

今後も、市民活動団体の活動の幅を広げるきっかけとなるような事業を提供していきたいと思っております。事務局からの報告は以上です。

座長：ありがとうございます。事務局から実施事業のご報告がありましたが、何かご質問やご意見がありましたらお願いします。

奥山：フードドライブマッチング事業報告の内容で、食品提供者4名となっていますが、これは個人で4名ですか。それとも法人の代表者等で4名なのでしょうか。個人で4名ということであれば、提供者が少なすぎる気がします。

林：開催前から、東大宮グループフェスタの広報と一緒に広報させていただいてはいたのですが、1日だけフードドライブということで設置をさせていただいて、当日は4名という少ない人数ではありますが、ご提供いただいたところでございます。

奥山：その人数で事業と言えるのでしょうか。

林：毎年様々なコミュニティセンターに行かせていただいております。昨年度は4名でしたが、令和5年度にふれあいプラザいわつきで実施させていただいた際には、10名以上の方々にご提供いただいております。

奥山：事前の広報はやっていないのですか。

林：フードドライブマッチング事業単独での広報は行っておりませんでした。今後は単独での広報も検討させていただきます。

奥山：次年度にまたこういった事業をするのであれば、もっと改良するべき点はあるのかなと思います。

春華：市民活動を15年近く実践していて思ったことなんですけど、フードドライブやこども食堂等は全国でも結構やっていると思うんですが、文房具ドライブのようなものがあるのもいいと思います。私の所属している団体でも、文房具等を買えないこども達に鉛筆等の文房具を提供しています。自分のところではいらないものでも、誰かが必要としている場合があるので、そういうことも事業としてやっていただければいいなと思います。

座長：フードドライブは注目を浴びておりますけれども、それ以外の事業はなかなか無いのが現状ですよね。会社だけでなく、ご家庭でも引っ越しの時期には捨てるものが多いので、再利用できるものはあるかと思います。提供されたものは、皆様に全て配られたのでしょうか。

林：はい。そうです。

座長：最近ご家庭の方で、ふるさと納税で貰ったのはいいものの、余ってしまったということもあつたりしますので、フードドライブ以外からも広げていくと良いかもしれませんね。

たびたびこの運営協議会でも課題として挙げられるのが、次の世代を育てる。子供をなるべく絡めようということですね。よくご意見をいただきますけれども、それが事業として実践されていると思います。引き続きこういった事業を実施していただくと、さらに裾野が広がると感じているところでございます。それではよろしいですかね。特になければ、次の議事の方に

入っていきたいと思います。

3 議事

(1) 令和7年度事業計画について

座長： それでは次に行きたいと思いますが、次第の「3（1）令和7年度事業計画について」、事務局より説明をお願いいたします。

事務局： それでは、議事の令和7年度事業計画について、説明させていただきます。資料2をご覧ください。サポセンでは、指定管理者（公益財団法人さいたま市文化振興事業団）にて毎年度事業計画を作成しております、その計画に基づき事業を実施しております。セミナー・イベント等についても、指定管理者にて企画立案から開催まで実施しております。

そこで、今回は令和7年度事業計画について、市民活動実践者の視点から、セミナー・イベント内容の向上等について、委員の皆様のご意見を伺いたいと思います。委員の皆様からいただいたご意見を参考にさせていただき、今年度の事業を実施したいと考えております。

2ページをご覧ください。2ページ以降に、今年度実施予定の事業を一覧にしております。サポセンでは、交流ネットワーク、大規模イベント、中規模イベント、セミナーといった事業を行っております。サポセンフェスのように毎年度継続している事業もあれば、ChatGPT 講座のように新規で実施する事業も存在しております。今年度は昨今の市民活動の ICT 化に伴い、デジタル機器を活用した講座を多く取り入れているところでございます。また、これまでの運営協議会にて委員の皆様よりいただいた意見を反映し、「印刷作業室活用講座」、「グラフィックレコーディング講座」にて平日開催を行っております。さらに、「NPO 法人会計基礎講座」、「防災対策講座」にて定員枠の拡大を検討しております。

今年度の事業をご覧ください、セミナー・イベント内容の向上等について、委員の皆様のご意見をいただければと思います。事務局からの説明は以上です。

座長： ありがとうございます。今ご説明いただきましたように令和7年度の事業計画では、継続のものと新規のものがございますけれども、ご意見をいただければと思います。先程早速、フードドライブだけじゃなくてもっと広げた方がいいといったご意見がありました、他に気づきの点があれば忌憚のないご意見をいただければと思います。

春華： 防災対策講座が12月に開催されると思うのですが、これはどういった講座なのでしょう。例えば、防災士の資格が取得できるとか、AEDの講習を行うとか、そういった内容を取り扱うのであれば、1回の講座ではなかなか難しいと思います。

事務局： 現時点では資格の取得等を行える講座ではなく、災害への備えを学び、市民活動に役立てることができるようなものを想定しております。詳細については、これから指定管理者と協議していく予定です。

堀江： 私の所属する団体では、約13年間、自然環境保全をやっているんですね。そこで委員の皆様には、災害時には広い場所に集まりましょうとお伝えしております。なぜなら、障害者や高齢者の方々の中には指定されている避難場所まで行くことができない方もいるんですね。

私は以前防災課に行ったんですけども、さいたま市は危機管理が薄すぎます。まず職員の方々のレベルが低いんです。話が通じないんですね。だから私の場合は、そういうふうにして委員の皆様がいざ何かあったときに、広い場所に集まりましょうと話しております。市で

以前防災士の講習をやったんですけれども、実際に災害が発生したときに、その防災士の方々が全く機能しないんです。そういうところからまずやらないと。セミナーで防災対策講座を1回やっても何の役にも立たないと思います。

奥山： サポセンで実施する事業にそこまで求めても難しいとは思いますが、今年度は前年度よりもセミナーの回数は増えているんですか。

事務局： 回数は概ね昨年度と同様とさせていただいております。

奥山： セミナーも新規のものと、継続のものがありますよね。新規の中にたまたまこの防災対策講座が入っていたから疑問だったのですが、新規・継続の選別はどこでラインを引いているのかといった基本的なところを確認したいと思います。

事務局： 昨今の市民活動のICT化に伴いまして、デジタル機器の活用を希望される団体が非常に多くなっております。特にご高齢の方々の中には、Word・Excelにほとんど触れたことがないという方もいらっしゃるので、そういったニーズを吸い上げて、今回はWord・Excel初級編といった講座を新規で設けさせていただいております。あとはもう少し発展的な講座として、AI技術を活用して市民活動団体の活動の幅を広げるために、ChatGPT講座といったものを新規で設けさせていただいているところです。基本的には印刷作業室活用講座のようにサポセンを利用する上で必要なものですか、NPO法人会計基礎講座のように市民活動団体の会計スキルの向上といった基本的な講座については継続で実施させていただいております。今年度ですと、それ以外の講座はICT化に伴うニーズに基づいた講座を中心とさせていただいております。

防災対策講座につきましては、新規で今回開催させていただいたものですので、今回開催した後でまた開催してほしいといった参加者からの要望があれば、来年度も継続して開催する可能性がありますし、参加者から不評であれば継続しない可能性もございます。

奥山： 分かりました。ありがとうございます。

春華： 防災に関して、私が市民活動を始めたのは東日本大震災の直後だったのですが、まず市民活動を始めるにあたって、災害ボランティアと普通のボランティアの違いですとか、そういった基本的な心構えを取り扱っても良いのかなと思います。

座長： 防災対策講座の内容についてはもう少し練った方が良さそうですね。他いかがでしょうか。

武原： さいたま市の中で地域づくりコーディネーターって言葉をあまり聞かないんですけれども、必要性を感じていないんですかね。今回の講座を見ても、地域づくりコーディネーターのような、人材育成の講座が出てこないんですよ。今の時代は1つの団体で地域づくりができるわけではなくて、地域づくりの必要性を感じているのであれば、地域づくりコーディネーターが非常に大切だといった考え方が重きを成してきていると思うんですけれども、そういうものが出てこないことに対して疑問を感じます。どういった地域づくりをしていこうと思っているのかが見えてこないんです。

高橋浩： 単発のフードドライブとか防災とかいろいろされていますが、それを繋ぎ合わせる人が必要な感じがしますよね。単発で予算がついて指定管理者を決めてこういった講座がありますといっても、我々に対して費用対効果を示した資料もなく、誰を対象にしてどのくらいの目標でやるともなく、繋ぐということをテーマにするのであれば、地域づくりコーディネーターは重要になってきますよね。

武原： 私は柏市に住んでおりますけれども、柏市でも地域づくりコーディネーター養成講座を開催していて、地域づくりをするためには必ず必要だって言っているんですよ。

堀 江： さいたま市は指定管理者に丸投げみたいな形でやって、指定管理者が自身の範囲内だけのこ
としかできないんですよね。だから地域づくりコーディネーターも考えられない。

武 原： 指定管理者がコーディネーター養成講座を開催して、市民の方々にもデータアナリストにな
って活躍してもらおうといったやり方でも良いと思うんですよ。どんなお考えなのか少し気にな
っています。指定管理者が悪いとは言いませんよ。でも、地域づくりを重要視しているの
であれば、なぜコーディネーターといった言葉が出てこないのでしょうか。

春 華： このサポセンは割と頑張っているとは思いますが。指定管理者が何かしようとしても、市のス
トップがかかったりとか、様々な制約があるかもしれません。

武 原： コーディネーター育成に対して市のストップがかかるとは思えないんですよね。事業計画を
見てもコーディネーターといった言葉が全く出てこないのが不思議なんです。

林： サポセンでは地域 ICT リーダ活用講座を継続で開催しております。地域 ICT リーダ養成講座
をさいたま市主催で開催しているのですが、講座を受けてもその後どうしていいのか分からな
いという声が多かったので、どういう活躍の仕方ができるのかといったような内容もこの講座
で扱っております。地域づくりということではちょっとお聞きしたいんですけど、こういった取
り組みも地域づくりの一端と成り得るとの認識でよろしいのでしょうか。

武 原： どうしたらいいか分からない方々のために、コーディネーターとはどういうものかというこ
とをちゃんと講座でやっていただく必要があると思います。例えば、地域づくりをどうやっ
て進めたらいいのかとか、資金調達するためにはどうしたらいいのかとか、ファシリテーショ
ンの力をつけるにはどうしたらいいのかとか、そういったコーディネーターとして基本的な力
をつける講座があるといいと思います。

大 地： そもそも地域づくりの定義はどういったものなのですか。市民全員が NPO に関わるわけでは
ないですし、むしろほとんどの人が関わっていないわけですから。その中で、地域づくりの定
義や、一般市民がどういった形で関わっていくのかというところが見えてこないのですが、地
域づくりの方向性がこの事業計画の中に示されているのでしょうか。

事務局： 様々なご意見をいただきありがとうございます。さいたま市では、平成 19 年にさいたま市
市民活動及び協働の推進条例（以下「条例」という。）が施行されました。市民と行政で持つ
ている資源を出し合って、お互いに協力し合って、協働で活力あるまちづくりを実施していく
ために条例を定めて、その市民活動を支援していく施設を作ろうということで、このサポセンが
生まれてきております。

基本的にサポセンのセミナーは、既存団体のスキルアップを目的としているものが多く、今
年度ですとパソコンを活用したセミナーがそれに該当します。それから市民活動の裾野を広げ、
参加を募って今後広げていくために、セミナーやイベント等の企画立案を行っております。

先程、防災対策講座の話が出ましたが、防災のスペシャリストを育てるということではなく、
自助、共助の関係で、そういった考えを念頭に置いて地域で活躍できるのではないかと
いうところで、市民活動に参加していただくためのきっかけ作りの 1 つとして考えて
おります。防災対策講座については、まだ詳しい内容までは詰めておりませんが、
そういったきっかけ作りの 1 つとして、セミナーを企画させていただいているところ
でございます。

武 原： 今のお話ですと、セミナーでは参加した団体のスキルアップを中心にやっている
ということなんですね。

事務局： はい。セミナー以外にも、団体同士の交流の場を持って、新たな課題に
取り組んでいただけ

ればというところで、交流イベントも行っております。セミナーによる個別のスキルアップだけではなく、そういった団体の交流の機会を設けることで向上していただければという考えもありますし、そういった中でノウハウが蓄積されることで、コーディネーターのような役割を持った団体が育っていただければ良いと考えております。

座長： 様々なご意見をいただきましたけれども、やはり地域づくりでキーマンを作るということは非常に重要ですね。防犯でしたら、防犯リーダーを養成している自治体もありますし、それぞれの分野でキーマンを作るということは非常に重要であると言われております。

今事務局から説明がありましたように、指定管理者にお願いをしているのは、あくまでもNPO活動や市民活動をやっている人の各論的などところといった趣旨でございますので、キーマンの養成は課題であると思います。

林： サポセンはそういったNPOの方々も多くご利用されますので、そういった方々の手助けになるような講座を開催させていただいております。

座長： 非常に貴重なご意見が出ましたので、運営協議会でこういった意見が出たというところでぜひ、指定管理者と協議をしていただければと思います。他自治体では積極的にキーマンの養成を行っているところもございます。地域にキーマンがいないと地域づくりが上手くいかないということは、どこでも言われているところです。

大地： この事業計画についての話なんですけれども、今回、継続新規で多くのイベントを計画されているかと思うのですが、昨年度の参加者数や来館者数を見ても、来館者数はのべ人数ですから、かなり重複していると思います。そうすると、市民活動を活発にしていくという趣旨に対して、非常に二極化しているようなイメージがあるんですね。サポセンを使っている人達は分かるけれども、他の人はサポセンの存在自体知らないと思います。昨年度のフェスティバルの意見を見ても、一般参加者が少なかったといったご意見もあったので、広報も工夫が必要だと思えます。

私も以前区民まつりの実行委員会を何年か担当させていただきましたが、ポスターやリーフレット、それから様々な場面での広報活動があります。講演会をやるときも、公民館だけではなく、近隣のクリニック等にも協力してもらうとか、とにかく人の目に触れるところに露出を多くしていかないと駄目だと思うのですが、今年は何か改善策等は考えられているのでしょうか。

事務局： 例えば昨年度のサポセンフェスにおきましては、サポセンのホームページ及び館内周知はもちろんのこと、市内を走行するバスの中でサポセンフェスの周知をさせていただきました。また、市民活動にそもそも興味を持っていただかないと難しい部分もありますので、先ほどお話しさせていただいたアートフラッグの展示等を行うことで、お子さんの作品を親御さんが見に来られるので、そういったところから裾野を広げたりですとか、様々な形で市民活動に興味関心を持っていただくための広報を行っているところでございます。

大地： アートフラッグの参加校は指定しているんですか。それとも公募しているんですか。

事務局： 地域連絡協議会協力校にお願いをさせていただいております。

大地： 保護司会だと「社会を明るくする運動」といったものが7月にあるのですが、6月の段階で、さいたま市内の全小中学校に、作文コンテストへの参加を保護司が訪問してお願いしているんですよ。それでも参加する学校が少ないので、こういった活動をしないと広がっていかないような気がします。

奥山： 来場者数の話は前回、前々回にも話が出ましたよね。数を増やすのであれば、有名な人を呼んでくれば、いくらでも増やすことができるといった話も出たと思うんです。このサポセンは一般の人をたくさん呼び込むことが目的なのでしょうか。そうではないと思います。市民活動している方々の連携を図るといったことが本来の目的ですよね。サポセンの来館者数を増やすことに集中するのは少し違うのかなと思っています。

事務局： 目的等はおっしゃる通りです。サポセンフェスの来館者数の増加は、さいたま市の総合振興計画の中で、事業における1つの指標として設定しております。ですので、来館者数を増やすことだけが目的ではなく、市民活動を支援しその活性化を図ること、団体間で交流を深めていただくことも重要であると認識しております。

また、市民活動に興味・関心を持っていただき、地域の課題解決に取り組んでいただくためのきっかけ作りとして、今年度もイベントやセミナーを企画しておりますので、来館者数の増加のみが目標ではない点についてはご理解いただければと存じます。

堀江： 市民活動を広げようと思って我々が広報に力を入れようと思うんですけど、それを市の方にお願いすると、予算がないと言われてしまいます。それではどのようにして市民活動をサポートしてくれるのかということになってしまいますよね。

花島： 区の広報は毎月出ますよね。南区フォトコンテストがありますから、時期が来ると私の団体も載せてもらえるので非常にありがたいのですが、効果はあまりないと思うんですよね。これは自分達で実施しても同じだと思います。最近高校にも行っているんですが、なかなか対応してもらえないんですよ。これこそ市から言ってもらわないと厳しいと思います。

春華： 市民活動とボランティアを一括りにしてお話させていただきますけど、私が始めた頃は、自分事として始めた人が多かった印象です。例えば避難所ボランティアだと、自身が被災者で避難してきたことをきっかけに始めた人が多いんですよ。「市民活動をやって偉いわね」と言われることがあるのですが、そういった市民活動を他人事として捉えている人達が市民活動を始めてくれると良いですよ。

こういった事業計画も、既存の団体の底上げの講座になっていると思うのですが、市民活動のチラシを作るためのパソコン講座とかではなく、子ども達が絵を書いたりするとか、市民の誰もがやってみたいと思うような、自分事になるような講座があると良いなと思いました。

大橋： 福祉の業界でも、先程春華委員がおっしゃった様に、課題が他人事と見なされてしまいます。どのように自分事として思ってもらえるのかが課題だと思います。

サポセンの役割は既存の団体の支援だと思いますが、こちらにお集まりの委員の皆様で市民活動をされている方々も、裾野を広げて、その他人事である市民の意識を変えていかなければいけないといった、同じような問題意識を持っていらっしゃるし、そこに危機感も抱いていらっしゃるのかなと思っています。我々の仲間が学生を連れて被災地に行っておりますが、現地で被災者と接しながら活動をすると、本当に問題意識が変わってきます。最初はボランティアのうちの1人だった方で、その後ボランティアリーダーからコーディネーターとなられた方もいらっしゃいます。そういった活動の核となる方々を育成していくことが大事だと思います。

今、我々は夏休み期間中に夏のボランティア体験学習を実施しているのですが、去年は小中学生、高校生、大学生が約1,200人参加されました。こうした市民活動を体験するための機会を提供することが必要であると感じました。それは学生だけではなく、大人も含めて市民活動を1回体験していただいた方が良いと思います。小中学校で総合的な学習の時間はありますが、

社会的な課題を自分で発見し、どうやって解決したらいいのかを学んでいくといったプロセスを踏ませてあげることで、他人事を自分事に変えていく活動になると思っています。様々な市民活動があって、さいたまユースサポートネットさんの様な魅力的な活動も多いとは思いますが、それを体験する機会が必要だと思います。

武原： おっしゃる通りです。ボランティアがなかなか集まらないので、一生懸命宣伝活動をしているところです。

春華： 学生達が行う 3 days 職場体験の様な形でボランティアや市民活動を体験できると良いですね。

大橋： 地域福祉の業界は西高東低だと言われています。一説によれば、関西は飴ちゃんを配るおばちゃんのような存在がいるから、こういった差が生じているのだと聞いたことがあります。このような人たちが周りの人達を巻き込んでいくコーディネーターの役割を果たしているのです、こうしたコーディネーションする人達を育成していくこともとても大事であると皆様のお話をお伺いして感じました。

それから、ホームページ等での広報も大事だと思いますが、昔と比べて人の流れが変わってきていると感じています。我々の窓口も、以前は学生が多く来ていましたが、最近は人が来なくなりました。現代ではネットや口コミを通して、人が繋がっていると感じています。忙しくてまとまった時間を取って活動できる人が少ないので、どれだけその活動を小さな単位にして担ってもらえるのかが重要になってきています。小さな単位で体験していただき、次第に大きな活動を担ってもらおうといったステップを踏まないと敬遠されてしまいます。これは市民活動に関わる様々な団体の共通課題になっていると感じました。

高橋司： 先程から広報の話が出ておりますが、昨年から「SAITAMA Minecraft AWARD」が開催されておりまして、それに向けて小学生を募りました。近くの小学校にチラシを配っても3人程度しか来ない。そこで先日、桜区の区報に埼玉大学の生徒が優しく丁寧に教えるといった触れ込みで載せていただきました。すると、トータルで11名の方が来ました。広報の仕方を工夫することで、効果も上昇すると思います。

座長： 広報について様々なご意見をいただきました。裾野を広げることは難しいのですが、サポートフェスを1つのきっかけとして広げたいということですね。市民活動に対する関心を持ってもらうための入口を作るという取り組みですが、ここからどう広げていくかが重要になっていると思います。

それから広報の話が出ました。毎年指摘されておりますが、広報をどうやっていくのか。先程大地委員から、実際に汗をかいて広報するしかないといったご意見をいただきましたが、私もお話を聞いてまさにそうだなと思いました。口コミから広げていくといった意見もありましたが、最終的には口コミが一番効果があるといった研究結果もあります。昔ルーズソックスが流行した時期がありましたが、ルーズソックスがどうやって流行したのかを社会学者が研究したところ、口コミで徐々に流行したという事実が判明しました。市で広告を出すだけでは、口コミでうまく広がっていかない可能性もありますので、その辺をもう少しお考えいただければと思います。

行政に予算を出せと言っても、今の時代は行政側も予算が潤沢にあるわけではありません。行政の持っている最大の資源は信用・信頼です。それをうまく利用すると効果があります。私の大学でも、何か行事をやるときに「千代田区協賛」となると人の集まり方が変わってきます。

先程高橋司委員から埼玉大学の生徒が教えるといった触れ込みにすると人が来たといったお話がありましたが、これもある種の信頼ですね。ですので、行政を利用できるところは利用して、広報していただくと良いのかなと思いました。今回も貴重なご意見をいただきましたので、その辺りも活かしていただくと、来年もまた裾野が広がっていくと思います。

大 地： ちなみにサポセンでは Instagram や X（旧 Twitter）はやっているのですか。

事務局： Xは活用しております。Instagramは現状では活用しておりません。

大 地： 千代田区の九段生涯学習センターでは、イベントや講座を開催すると、どういう人が参加したかが分かるような楽しそうな雰囲気の写真を Instagram などに載せていました。こういった取り組みはお金がかからないので、広く周知するには良いのではないかと思います。

座 長： 若い層は TikTok の様なショート動画を特に好むようですね。

本日は様々なご意見が出ましたので、出されたご意見を参考にして事業を行っていただければと思います。

4 閉会

座 長： 本日の議事は以上で終了となります。事務局から連絡事項等がありますか。

事務局： それでは事務連絡させていただきます。まず本日の会議の会議録ですが、案を作成し、メールまたは郵送にて皆様にお送りさせていただきますので、御発言内容等、ご確認をお願いいたします。また、次回の運営協議会ですが、11月頃に開催したいと考えております。また日程調整をさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。事務連絡は以上です。

座 長： それでは、以上をもちまして、令和7年度第1回さいたま市市民活動サポートセンター運営協議会を閉会いたします。委員の皆さん、お疲れ様でした。